

保健省の支援のもと

ミーティング 報告

危機 自然災害に対する 地域精神保健の対応 に処する

アレクサンドロポリス, ギリシャ

3月 | 27日~28日 | 2025年

社会精神医学会パナギオティス・サケラロプロス
との共同企画によるEUCOMSネットワークセミナー



第14回EUCOMS会議

危機への対処

自然災害に対する地域精神保健の対応

ギリシャ、アレクサンドロポリス

2025年3月27日～28日

主催者

EUCOMSネットワーク

社会精神医学会パナギオティス・サケラロプロス



EUCOMSの連絡先：

INFO@EUCOMS.NET

電話:+31 6 12361342 (RENÉ KEET - 議長)

冬 目

イントロダクション

4

講演者のプレゼンテーション

7

現地訪問 説明

28

ダディアパークへの遠足

32

閉会の辞

35

イントロダクション

主催者からの個人的なメッセージ

2025年3月27日～28日にアレクサンドロポリスで、欧州ネットワークEUCOMSと共催したセミナー「危機への対処：自然災害に対する地域精神保健の対応」を主催するにあたり、ギリシャ国内外から多くの素晴らしい方々からご関心とご参加をいただき、深く感謝申し上げます。

ギリシャ・トラキアの中心部でこの国際会議を開催できたことは、光栄であるだけでなく、メンタルヘルスにおけるコミュニティベースのアプローチを実践的に強調する機会でもありました。2023年8月に約100万エーカーの土地を焼失した壊滅的な山火事の被害を受けた地域では、モバイル精神保健ユニットの存在により、個人およびグループカウンセリングと心理サポートセッションを提供することで、住民が災害による心理的後遺症に対処することができました。だからこそ、このセミナーの開催地としてアレクサンドロポリスが選ばれました。地域社会で日々活動する人々を、私たちの議論とインスピレーションの中心に据えるためです。

セミナーの冒頭から、参加者全員が経験を共有し、有意義なつながりを築こうと熱心に取り組んでいることがはっきりと伝わってきました。トラキアの仲間たちのプレゼンテーションは、最も困難な状況下でも、誠実さ、献身、そして冷静さをもって「現場」で行われている活動を示していました。特に注目すべきは、ギリシャの精神保健サービス利用者協会「セルフ・リプレゼンテーション」のメンバーであるジョルゴス氏の参加でした。特に感動的だったのは、アレクサンドロポリス・モデル職業高等学校の生徒たちが制作したビデオ「940,000」の上映で、私たちは深く心を打たれました。生徒たちは芸術を通して、山火事のトラウマを成熟した視点で表現し、私たちに真の希望を与えてくれました。

同様に印象深かったのは、地域住民が主導する体験セッションで、2023年の山火事を直に経験したことを勇気を持って共有し、その場にいた全員を深く感動させました。続いて、ギリシャのメンタルヘルス機関連合「アルゴ」のメネラオス会長をはじめとするギリシャ国内の地域の同僚や、トルコのセレン・アカルテュルク氏、スペインのミラグロス・モレロ・ザフラ氏、イタリアのフェリタス・クレシモン氏といった国際的な講演者が、トラウマ管理、地域支援、有限責任生活協同組合による環境保護活動に関する貴重な経験と実践的なツールを共有しました。

2日目は実践に充てられました。私たちは大きな喜びとともに、活動地域内の2つの村にあるモバイル精神保健ユニットをゲストの皆様にご案内しました。皆様は、僻地における地域精神医療がどのように機能しているか、文化の違いを尊重し、地方自治体や住民との協力に基づいているかを、直に体験されました。就労準備・職業訓練プログラムの農業現場を訪問したことで、参加者は自然とその癒しの力と再び触れ合うことができました。参加者は、大地と共に働くことがいかに真に癒しをもたらすかを目の当たりにしました。

主催者として、私たちは心温まる人情の瞬間を鮮明に記憶に刻むことでしょう。異なる国々から来た人々が共通点を見出した会話、参加者の目に宿る感動、セミナーに参加した地域や私たちが訪問した地域からこぼれ出る喜びと寛大さ。そして何よりも、私たち全員が、自分たちを超えた何か、つまり、精神保健ケアと環境災害の両面において、地域をよりレジリエンスがあり、より支え合い、より人間らしくするための共通の努力の一部であるという感覚を抱いたのです。

このセミナーは単なる学術的なイベントではありませんでした。それは人生における経験でした。思いやり、連帯、そして知識のネットワークを、自分たちの場所から築くことができるという証です。

心から感謝申し上げます。

- 共同主催者であり、EUCOMSネットワーク会長のレネ・ケー氏
- ギリシャおよび海外からの講演者の皆様
- ギリシャ保健省、東マケドニア・トラキア地方、そして地方自治体の皆様
- イベントを支援してくださったボランティア、学生、専門家、そして団体の皆様
- 8カ国から85名の参加者の皆様
- S.S.C.とEUCOMSによるセミナー組織委員会の皆様
(ランブロプル・エレフテリア、カツリ・カテリーナ、イオアニドゥ・ナターシャ、グツシドゥ・コリナ、マラゴザキス・アキス、ベラス・イオアニス、ニコラス・ニコス、ハジ・マリア、パパドゥディ・アタナシア、オヴィディウ・オニチュク)
- そしてもちろん、私たちを温かく迎えてくださった地域社会の皆様。

地域の力と協力を信じて、

アテネ・フランゴウリ・サケラロプロウ
社会精神医学会 P.サケラロプロス会長





アテネ・フランコウリ＝サケラプロウ

博士、LRCSLT、社会精神医学会P.サケラプロス執行委員会会長

言語聴覚療法士の博士号を取得。社会的に疎外された集団への偏見と闘うための調査研究、論文執筆に携わり、市民、家族、精神保健サービスの利用者を対象とした心理教育プロジェクトに参加しています。

児童・青少年への積極的な支援を提供しています。心理学および応用社会学の学士号、言語聴覚療法のディプロマ、英国王立言語聴覚療法士協会認定

（LRCSLT）。小学校教員免許、言語聴覚療法に関する欧州大学院課程、社会精神医学（児童・成人）の修士号、経営・人事問題に関する継続教育。

社会的弱者と協力する専門知識があります。

社会精神医学会P.サケラプロスおよび児童・青少年・成人メンタルヘルス研究所の会長。

言語聴覚療法、健康問題に関する地域教育、サービスの管理と評価、社会的弱者や障害者の主流市場への就労統合、ソーシャルファームや協同組合などの代替就労機会などを扱う、数多くの会議やセミナーで講師を務めています。

主な活動：社会的経済プロジェクト、調査、トレーナーの研修、ロビー活動とアドボカシー活動、プロモーションとネットワーキング、ボランティアとの連携など、様々な活動に携わっています。

講演者のプレゼンテーション

講演者とプレゼンテーションについて

セミナー「危機への対応：自然災害に対する地域精神保健の対応」は、3人の基調講演者による温かく思慮深い言葉で幕を開け、これからの2日間の礎を築きました。

EUCOMSネットワーク議長のレネ・ケー氏、社会精神医学会会長のアテネ・フランゴウリ＝サケラプロウ氏、そしてサービス利用者であり地域代表でもあるジョージ・ケスキニデス氏は、ヨーロッパ各地からの参加者を歓迎し、危機における地域に根ざしたメンタルヘルス対応の価値を強調してイベントの開会を告げました。

EUCOMSネットワークが「実体験」を重視するというコミットメントに基づき、セミナーは実体験を持つ人の声で始まり、終わりました。ジョージ氏の存在は、リカバリーの道を歩んできた人々の強さ、洞察力、そしてリーダーシップを改めて私たちに思い起こさせてくれました。



施設からアドボカシーへ： リカバリーと環境意識向上を通じた個人的な旅



ジョージ・ケスキニデス

サービス・ユーザー

ジョージ・ケスキニデスと申します。精神保健サービスを受けています。ギリシャで「パイドポリス」と呼ばれる施設をいくつも転々とした後、1990年にこの街に来ました。パイドポリスとは、保護されていない孤児や孤児のための施設です。決して楽な道のりではありませんでしたが、今は前進できたと信じています。

1990年からは、社会精神医学会の「パナギオティス・サケラロプロス」ファミリーの一員となり、保護アパートに住んでいます。サケラロプロス教授に出会えたことは、私にとって大きな幸運であり、喜びでした。教授は私を大いに助けてくれました。彼は先駆者であり、私の話に耳を傾け、共感してくれました。彼の助けがあったからこそ、今の私があるのです。

私がよく話す話があります。私が彼にコンピューターゲームが好きだと話した時（ご存知の通り、コンピューターゲームは当時はあまり一般的ではありませんでした）、彼はそれが何なのか知らなかったにもかかわらず、全く否定的な態度をとらなかったのです。それどころか、彼と彼のパートナーたちは、当時の電子機器をたくさん見つけてくれました。今では、家には高性能のコンピューター、たくさんのゲーム機、プレイステーションがあり、ルームメイトのニコと一緒に、素晴らしいサウンドシステムと50インチのテレビがあります。

ここ10年ほどで、私たちはグループ活動に参加するようになりました。そこでは、私たちにとってある程度馴染みのあるテーマを扱いながらも、より体系的な議論をするようになりました。2015年頃には、私たちの権利について話し合い、アドボカシーやセルフアドボカシーについて話し合うようになりました。このプロセス、つまりグループ活動は、私たちに力を与え、集団で考え、お互いをより頼り合い、多くの共通点があることを感じ、自分自身と隣人のためにより良いことをしようと努力する価値があると思えるようになりました。

リカバリーという概念は、症状が私の人生の全てではない、という考え方を補完するものとして生まれました。症状はほんの一部に過ぎません。日常生活には楽しいことがたくさんあるので、病気の症状と共存しているのです。友人、会社、恋人、仕事があります！

私は、この代表団体、受給者協会、エヴロス県メンタルヘルスの家族・友の会の理事会メンバー、有限責任生活協同組合「ノーチラス」の創設メンバー、そして旧小児検診における受給者と家族の選出代表者です。

今日、私たちのグループでは、次のステップについて話し合っています。セルフヘルプに加えて、ピアサポートがあります。他の国では、ピアサポートは専門職であり、学際的なチームで学び、経験を活かして参加できることを私たちは知っています。ギリシャではまだこの段階には程遠いですが、第一歩を踏み出していることも知っています…

協会に参加したことで、私は人間的に変わりました。充実した生活を送ることができました。しかし、私の心身の健康にとって、さらに重要だったのは、チョラフィの土地と関わったことだと思います。そこでは、私は、耕作、植物への散水、製粉機や草刈り機の使用、家畜への餌やり、製品の加工、そして新しいパートナーの育成に携わっています。

こうした経験を通して、私はこのセミナーとそのテーマに共感しているのだと思います。私は、世界規模でも地域規模でも、環境危機についていくつかの懸念を抱いています。それが私たちの土地や作物に及ぼす影響だけでなく、より重要なのは、私たちの心の健康への影響です。だからこそ、この週末に何が議論され、私たちが共に何に取り組むのか、楽しみにしています。なぜなら、この問題に皆で取り組むことは、私たちにとって価値のあることだからです。

ヨーロッパにおける環境危機が 子どもと大人の精神的健康に与える影 響



レネ・ケー

*EUCOMS ネットワーク会長、
地域精神保健サービス GGZ NHN-FIT アカデミーディレクター*

レネ・ケーは現役の精神科医であり、オランダの地域精神保健サービスGGZ Noord-Holland-Noordの国際化に関する理事会顧問を務めています。彼は、研修、eラーニング、サービス評価、そして地域精神保健ケアの国際改革プロジェクトへの支援を提供するFIT アカデミー（Flexible, Innovative Top-ambulatory）を設立しました。彼は自身の経験を科学と臨床実践に加え、専門知識の源として活用しており、今もなお学び続けています。

彼は欧州地域精神保健サービスネットワーク（EUCOMS：<https://www.eucoms.net>）の議長を務めています。このネットワークの目的は、国際交流において互いの実践から学び、精神保健ケアにおける人権を支援することです。これは、地域精神保健という共通のビジョンに基づいた実践コミュニティです。

地域精神保健は、人権、公衆衛生、リカバリー、有効性、そしてピアの専門知識という6つの原則に基づいています。

彼はこれらの原則について、<https://vimeo.com/256413380>で説明しています。

彼は、モルドバのMENSANA（<http://trimbos.md/?lang=en>）をはじめとするメンタルヘルス改革プロジェクトや、ヨーロッパ各地およびその以外の地域でのプロジェクトにおける国際的な専門家です。彼は、ウクライナにおけるコミュニティベースのメンタルヘルスに関するWHOのコンサルタントを務めています。彼は、メンタルヘルスに関するグローバルリーダーシップ諮問グループ（GLAG-MH）<https://gle.world/>のメンバーでもあります。

[レネのプレゼンテーションはこちらをクリック](#)



ディミトリス・タタリデス

修士、社会精神医学会P.サケラロプロス執行委員会事務局長

ディミトリス・タタリデスは、ヨアニナ大学で心理学の学士号（1993年）、エディンバラ大学認知科学センターで修士号（1995年）、オープン大学で遠隔学習方法論の大学院修了証（1999年）を取得しています。

現在、2007年から社会精神医学会P.サケラロプロス（SSP.P.S）の事務局長兼運営委員を務めています。彼の業務は、モバイル精神保健ユニット、デイセンター、精神社会リハビリテーションユニットなど、地域精神保健サービスにおける組織システムの設計と実装、および品質保証に重点を置いています。また、教育、職員研修、組織開発のプロジェクトも主導してきました。

1996年以来、社会精神医学会、子どもと大人のためのメンタルヘルス研究所、ギリシャSOSビレッジなどでの専門的経歴を持つディミトリスは、ギリシャ全土のメンタルヘルス施設で理論と実践の研修を指導してきました。

ディミトリスは、生活協同組合の理事長（2017年以来）、メンタルヘルス・ヨーロッパの理事および人権委員会委員（2004～2018年）など、複数の国内および欧州レベルの組織の理事を務めてきました。

[ディミトリのプレゼンテーションはこちらをクリック](#)

ギリシャの農村地域におけるメンタルヘルスケアにおける モバイル精神保健ユニットのパラダイム



イオアニス・ベラス

精神科医、社会精神医学会P.サケラロプロストラキア地方

イオアニス・ベラス博士は、ギリシャのテッサロニキにあるアリストテレス大学で医学博士号を取得し、アレクサンドロポリス大学総合病院精神科で研修医として勤務しました。過去5年間は、ギリシャ北東部の社会精神医学会P.サケラロプロスの精神科医として勤務しています。



[イオアニスのプレゼンテーションはこちらをクリック](#)

共に生き、共に学ぶプログラム。
多様な文化的課題を抱える地域における学校コミュニティとの連携



ピナール・コツァ・サリ

特別支援教育教師、修士、社会精神医学会、P.サケラロプロス トラキア地方

ピナール・コツァ・サリは特別支援教育の教師で、ギリシャ語、トルコ語、英語に堪能です。アレクサンドロポリス生まれ。2015年にコモティニ第一高等学校を卒業し、2019年にテッサリア大学で特別支援教育の学位を取得しました。

障がいのある方のためのカウンセリングや職業指導に関する研修を含む、数多くのセミナーやワークショップに参加しています。ギリシャ手話、ギリシャ点字、アテナテストの通訳の資格を取得しています。2022年からは、トラウマ的な出来事を経験した生徒を支援するERASE-Sプログラムの認定を受けています。

ピナールは現在、社会精神医学会「P.サケラロプロス」に所属し、学習アセスメントを実施し、児童向けの個別介入プログラムの設計に携わっています。2024年には、WHOの若手メンタルヘルス専門家フォーラムに参加し、ベストプラクティスに関する国際的な議論において組織を代表しました。2023年3月より、トラキアのデモクリトス大学で労働安全衛生の大学院課程に在籍しています。

[ピナールのプレゼンテーションはこちらをクリック](#)

エヴロス中等教育局と社会精神医学会P.サケラロプロスとの緊密な協力



アレクサンドラ・ゴウリアマ

博士号、中等教育における言語学者の教育アドバイザー
(エヴロス局)、中等教育の教育プロジェクトの補足品質監督者

アレクサンドラは哲学の学士号を取得し、ギリシャの公立中等教育機関で古典文学の教師として勤務しています。2023年3月からは、エヴロス中等教育局の言語学者のための教育アドバイザーを務めています。過去（2012年から2018年）には、エヴロス中等教育局の別の諮問機関で青少年諮問センター長を務めていました。

彼女は大学院で異文化教育（修士号）と教育リーダーシップ（教育学修士号）を専門としており、博士号はデモクリトス・トラキア大学医学部（児童精神医学）で取得しています。

彼女の論文のテーマは、学校でのいじめへの青少年の関与と、彼らの心理的および異文化プロファイルとの関連性です。

彼女は、校内暴力やいじめといった教育問題の研究に携わり、論文を執筆し、国際会議や国内会議にも参加しています。過去には、ギリシャ教育省の科学委員会の委員を務め、ギリシャ政府が学校におけるいじめ対策の確立に尽力した経験があります。



[アレクサンドラのプレゼンテーションを見るにはここをクリックしてください](#)

エヴロス中等教育局と社会精神医学会P.サケラロプロスとの緊密な協力



ヴァシリキ・カラマリ

アレクサンドロポリス高等職業学校校長、情報技術教育者

ヴァシリキ・カラマリはフティオティダ県ラミア生まれで、既婚、2人の子どもがいます。ソフィア国立世界経済大学で経済情報学の学位を取得し、ギリシャのDIKATSA（社会保障局）に認定されています。また、デモクリトス大学（トラキア）と国際ギリシャ大学で環境政策、教育マネジメント、デジタル&ソフトスキルの3つの修士号を取得しています。

2020年からは、アレクサンドロポリスのモデル職業高等学校の校長を務めています。20年以上の情報技術教育者（PE86）としての経験を持ち、公立教育のあらゆるレベルで指導に携わってきました。民間部門でも勤務経験があり、英語、ブルガリア語、イタリア語を流暢に話します。

ボランティア活動にも積極的に取り組んでおり、2018年からは地元の障害者スポーツクラブ「KOTINOS」の役員を務めています。文学、ヨーロッパ映画、油絵に興味があります。

[ヴァシリキのプレゼンテーション
はこちらをクリック](#)

エヴロス中等教育局と社会精神医学会P.サケラロプロスとの緊密な協力



エレフテリオス・ハノス

アレクサンドロポリス モデル職業高等学校2年生（海洋学）

エレフテリオス・ハノスは2008年7月23日生まれで、現在アレクサンドロポリス・モデル職業高等学校の2年生で、海洋学を専攻しています。

エレフテリオスは意欲的で協調性のある生徒であり、グループプロジェクトや学校行事に積極的に参加しています。映画を深く愛好する彼は、映画を創造的表現のための強力な媒体と考えています。2022年からは学校の映画クラブで積極的に活動し、以下のような顕著な功績を残しています。

- 2023年、短編映画「940,000」で国際コンペティションで1位を獲得。
- 2022年、IOAS全国コンペティションで交通安全に関するテレビスポット部門で1位を獲得。

映画への関心に加え、彼は2022年から学校のサッカーチームに所属し、ボーイスカウト活動にも参加してボランティア活動や環境啓発活動に取り組んでいます。さらに、映画、ロボット工学、環境活動など、幅広い分野に興味を持っています。

[エレフテリオスのプレゼンテーション](#)
[はこちらをクリック](#)

自然災害と精神保健ケア： 社会精神医学会P.サケラロプロスによる エブロス地域火災被災地への介入



アキス・マラグコザキス

ソーシャルワーカー、修士、社会精神医学会P.サケラロプロス、
トラキア地方

社会精神医学の修士号を取得したソーシャルワーカー。キャリアの初期には、NGO「メタドラシ」において、ギリシャ・トルコ国境で保護者のいない未成年者および親と離ればなれになった未成年者の保護者として活動し、心理社会的支援を提供し、脆弱な立場にある子どもたちの権利擁護に携わった。

2018年にはHumanRights360のチームリーダーに就任し、保護者のいない未成年者、強制わいせつ犯罪（SGV）の被害者、そして拘留中の人身売買被害者に対する心理社会的支援と法的支援のコーディネートを担当した。また、国境における人権侵害の調査において、フォレンジック・アーキテクチャーと協力した。

2022年には、ギリシャのストリートペーパー「シェディア」のプロジェクトコーディネーターに就任し、ホームレス問題に直面している人々への社会福祉サービスの監督と、ギリシャのホームレス代表サッカーチームを含む「貧困撲滅」サッカープログラムの運営に携わった。

2023年12月より、故郷の社会精神医学会P.サケラロプロスで活動しています。アキス氏は、社会的包摂と難民保護に関する国内外の数多くの会議やフォーラムに積極的に参加しています。

[Akisのプレゼンテーションはこちらをクリック](#)

火災被災地で活動するサービス利用者とスタッフの 体験談をインタビューしたビデオ上映

火災後、私たちは当時共に活動していた多くの人々と再会することができました。セミナーの議題には、コーディネーターとのグループミーティングも含まれています。しかし、他の同僚やサービス利用者にも、それぞれの経験や感情を共有する機会を与えることが重要だと感じました。

そのため、ソーシャルワーカーのコリナ・グツィドゥとアキス・マラゴザキス、そして精神科看護師のナターシャ・イオアニドゥは、インタビューを収録した短いビデオを作成しました。

このビデオでは、避難を余儀なくされたアレクサンドロポリス郊外の保護リハビリテーションハウスの同僚、スフリ市の社会保障局副局長、私たちのチームのメンタルヘルス専門家、ダディア教区司祭、そして危機を直に経験したサービス利用者の方々からお話を伺います。

彼らの物語は、火災中および火災後に経験した困難、レジリエンス、そして共同の努力を反映しています。少し時間を取って、彼らの話に耳を傾けましょう。



ビデオインタビューを見るには
ここをクリックしてください

災害後の集団的対応：
共存を通してレジリエンスを構築する
アキス・マラグコザキス氏によるファシリテーター

「自然災害と精神保健ケア：火災被害を受けたエヴロス州における社会精神医学会P.サケラロプロスによる介入」と題したプレゼンテーションに加え、アキス・マラグコザキス氏はパネルディスカッション「災害後の集団的対応：一体感を通じたレジリエンスの構築」のファシリテーターを務めました。この体験型セッションでは、被災コミュニティの心の奥底からの声を集めました。パネルでは、体験ワーキンググループのメンバーであるDimitris Kostopoulos氏（ギリシャ救助隊のボランティア救助員）、Giorgos Hatzigeorgiou氏（アヴァンタス地域評議会元会長）、Vaso Pantelidou氏（キルキ地域評議会会長）、Elena Ntaoula氏（ダディア地域評議会議員）、Vaggelis Kikos氏（ダディアの農家兼住民）、Dora Moschou氏（アレクサンドロポリス消防署の消防士）によるプレゼンテーションが行われました。彼らの力強い証言は、共通のトラウマと連帯感の中に見出される強さについて、生々しく感動的な視点を提供し、自然災害後の地域主導のメンタルヘルス対応の重要性を強調しました。



共にレジリエンスを築く：環境危機における 地域精神保健サービスのベストプラクティスと経験

欧州諸国の事例

セミナーの国際的な側面の一環として、「共にレジリエンスを築く：環境危機における地域精神保健サービスのベストプラクティスと経験」と題した特別パネルが開催され、ヨーロッパ各地からの知見が結集しました。3名の著名な講演者が、環境災害後の精神保健ケアに対する各国独自のアプローチを共有しました。

トルコの**Ceren Acartürk**氏は、最近の地震へのメンタルヘルスの対応について発表し、トラウマに対するエビデンスに基づいた心理的介入に焦点を当てました。スペインの**Milagros Molero Zafra**氏は、バレンシアの大洪水後の**Assyst**プロトコルの心理的効果について考察しました。

イタリアの**Felicitas Kresimon**氏は、グリーン経済における雇用創出を通じて、社会的企業が環境危機への対応において重要な役割を果たしている様子を共有しました。これらの講演は、危機時のレジリエンス、イノベーション、そして連帯に関する貴重な視点を提供しました。



トルコ地震におけるメンタルヘルス対応の経験



Ceren Acartürk

Ceren Acartürk氏は、イスタンブール・コック大学の臨床心理学准教授であり、コック大学移民研究センターの執行委員会メンバーです。彼女の研究は、難民のメンタルヘルス、メンタルヘルスの社会的決定要因、そしてトラウマや逆境後のメンタルヘルス問題に対する心理的介入の評価に焦点を当てています。アカルテュルクは、強制的な避難や自然災害後の「問題管理プラス」や「セルフヘルププラス」といった短期心理的介入の有効性を検証してきました。彼女の研究は、脆弱な集団に対する効果的で拡張可能なコミュニティベースの心理的介入の実施増加に貢献することを目指しています。



[Cerenのプレゼンテーションは
こちらをクリック](#)

スペイン、バレンシアにおける前例のない洪水への対応 - DANA被災者におけるアシストプロトコル適用後の 心理的効果



Milagros Molero Zafra

General Health Psychologist, Board Member of EMDR Spanish Association

心理学の学位、ATFCVおよびPACT認定の家族療法士
認定カップルセラピスト、一般健康心理学者、FEAP
認定心理療法士、EMDRファシリテーター、臨床医、EMDRスペインおよび
EMDRヨーロッパ認定の成人および児童・青年のコンサルタント。

彼女の最新の研究プロジェクトは、EMDRと家族療法を組み合わせたトラウマ
的状况における家族介入、および児童に対する性的虐待を受けた女性に対する
EMDRを用いたグループ介入です。彼女は、この分野における悲嘆と心理的支
援に関する複数の書籍の章と科学論文を執筆しています。危機的状况、慢性疾
患および末期疾患、そして死別に関する臨床専門家です。

彼女は、民間臨床診療、研究、教育において、認定を受けた豊富な経験を持っ
ています。彼女は、ADEIT、UV、VIU、UNEDなど、様々な大学の修士課程で、
社会・健康分野の科目（パーソナリティー障害、カップルセラピー、セックス
セラピー、緩和ケア、EMDR、老年期における心理的介入）を教えています。
彼女は、バレンシア市で25年のキャリアを持ち、自身の個人心理クリニック
「Sintest Psicología」の院長兼セラピストを務めています。また、危機介入
サービスを提供する複数の団体に所属する心理学者でもあります。

**Milagrosのプレゼンテーションは
[こちらをクリック](#)**

環境危機との闘いにおける社会的企業の役割 グリーン経済分野における雇用創出



Felicitas Kresimon

*SFE CEFEC General Secretary and Vice-Chairman of the board of
Duemilauno Agenzia Sociale Trieste, Italy*

フェリチタス・クレシモンは、SFE CEFECの事務局長です。ベルリン大学で社会教育学の学位を取得し、1995年以来、イタリアの生活協同組合において、障害や精神疾患のある（若者の）人々を支援する社会教育サービスの調整、監督、構築、恵まれない子どもたちのための教育サービスの開発、地域社会開発プロジェクトに携わってきました。2014年以降は、ドイツのオストファリア大学ヴォルフエンビュッテル校とイタリアのTrieste大学（いずれも社会福祉学部）など、複数の大学で教鞭を執っています。彼女の教育は、社会的経済とヨーロッパ全土における社会的企業の促進に重点を置いています。主な目的は、弱い立場に置かれた人々の雇用創出と就労包摂に関する理論的・実践的知識の促進と情報交換です。

[Felicitasのプレゼンテーションは
こちらをクリック](#)

気候危機災害後の心理社会的応急処置： アルゴ連邦の介入経験



Menelaos Theodoroulakis

*Phd in Social Policy, President of the boards of directors of ARGO
Federation and Panhellenic Association for Psychosocial
Rehabilitation and Professional Reintegration (PEPSAEE)*

メネラオス・テオドロウラキスは社会研究者であり、社会政策開発の専門家です。アテネのパンティオン大学で社会政策と社会人類学の学位を取得し、社会政策の博士号も取得しています。彼の研究は、社会保障、福祉、精神医療改革、社会経済、そして社会的弱者の職業リハビリテーションに焦点を当てています。

1998年以来、アテネ大学、パンティオン大学、国立社会研究センター、INEGSEE、PEPSAEE、そしてP.サケラロプロス社会精神医学会などの機関と協力してきました。彼はまた、欧州社会政策ネットワークの専門家として活躍し、現在はエレウシナにあるPEPSAEEデイセンターの科学ディレクター、および国立心理社会的サポートライン10306の科学委員会メンバーを務めています。メネラオスは長年にわたり非営利メンタルヘルス分野に尽力し、以下の通り様々な指導的役割を担ってきました。

PEPSAEE理事会会長（2014年より）
アルゴ連盟理事会会長（2015年より）
KoiSPE Evzin理事（2005年より）
アルゴネットワーク元会長（2005～2014年）
社会政策科学協会理事（2017～2021年）

**Menelaosのプレゼンテーションは
[こちらをクリック](#)**

環境危機に関する地域社会のエンパワーメントにおける モバイル精神保健ユニットの役割



Ioanna Kallia

*Mental Health Professional in the Society of Social Psychiatry P.
Sakellaropoulos, Fokida region*

心理学者、Mobile Mental Health Unit, Fokida
社会精神医学会のメンタルヘルス専門家、P. サケラロプロス

精神保健ケアサービスの専門知識と社会心理学の確固たる基盤を有しています。フォキダの学際的なモバイル精神保健ユニットの積極的なメンバーとして、包括的なメンタルヘルスサポートの提供に貢献しています。コミュニケーション、チームワーク、意思決定、そして地域社会の啓発活動や予防活動の調整に長けています。多様なコミュニティにおける心理社会的介入プログラムの主導、レジリエンスの向上、ウェルビーイングの促進に豊富な経験を有しています。

well-being within diverse communities.



[Ioannaのプレゼンテーションは
こちらをクリック](#)

危機管理の见えない課題：
レジリエンスの例としてのテッサリア島洪水



Tonia Antonopoulou

Coordinator, Psychosocial Rehabilitation Units of the Society of Social Psychiatry P. Sakellaropoulos, Fthiotida region

アントニア・アントノプロウは、テッサリア工科教育大学保健福祉専門職学部で理学療法士の学位を取得しました（2002年）。

2003年以来、社会精神医学会「P. サケラロプロス」傘下のFthiotida地区心理社会的リハビリテーションユニットで理学療法士として勤務しています。長年にわたり、組織内での責任を拡大してきました。

2015年以来、Fthiotida地区の心理社会的リハビリテーションユニットのコーディネーターを務め、2021年から2023年にかけてはNorth Euboia地区のモバイル精神保健ユニットの調整役を務めました。2024年には、Fthiotida地区保護アパートの科学監督に任命されました。

アントニアは、臨床およびコーディネーション業務に加え、社会起業とメンタルヘルス・インクルージョンの分野でも積極的に活動しています。2017年以降、Fthiotida-Eurytania地区の有限責任生活協同組合（KOISPE）「アネモネ」の理事および財務監督を務めています。2005年から2012年にかけては、Fthiotidaのラミアにある職業訓練所で理学療法の講師を務めました。

[Toniaのプレゼンテーションはこちらをクリック](#)

DINNER

セミナー初日は、居心地の良い空間のXarama Seaside Luxury Restaurantでのディナーで、温かく楽しい雰囲気の中、幕を閉じました。海を背景に、参加者は集まり、その日の経験を振り返り、感想を共有し、笑い、交流、そして美味しい料理に満ちたりラックスした雰囲気の中で過ごしました。有意義な会話と、軽快でコミュニティ精神に満ちたひとときが融合し、力強い初日を締めくくる素晴らしいひと時でした。



現地視察

エヴロス＝ロドピ地方のモバイル精神保健ユニット－社会精神医学会 P. サケラ
ロプロス＝フィリラのMMHU訪問

アリアナ市にあるフィリラのモバイル精神保健ユニット（MMHU）は、トラキア地方で社会精神医学会 P. サケラロプロスが運営する9つのMMHUの1つです。2015年に開設された最も新しいユニットで、月に1回活動しています。

COVID-19パンデミックの間、サービスは一時的に停止されていました。フィリラは、アレクサンドロポリスから53km離れたロドピ地域ユニット内に位置し、サペス町からはわずか17kmの距離にあります。

サペスMMHUは1992年に設立され、週2回活動しています。アリアナ自治体（フィリラ村）に追加のユニットが必要になったのは、この地域に多数の小規模で遠隔地にある孤立したコミュニティが存在するためです。

アリアナ自治体の人口は約15,000人です。フィリラは、57あるポマク少数民族の村の中で最初で最大の村であり、人口の約95%がイスラム教徒、5%がキリスト教徒です。

MMHUの治療チームは、重度の精神的および心理社会的困難を抱える成人へのケアを提供するとともに、その家族を支援しています。チームは精神科医と地元のイスラム教徒コミュニティのソーシャルワーカーで構成されており、サービス利用者の母国語で、文化に配慮したケアを提供しています。自治体の社会福祉サービスや地域の開業医とも緊密に連携しています。この小さな自治体で構築された支援ネットワークは、社会精神医学と地域に根ざしたケアの実践例であり、今回の訪問中に紹介されました。



現地視察

エヴロス＝ロドピ地方のモバイル精神保健ユニット－社会精神医学会 P. サケラ
ロプロス－ティケロのMMHU訪問

ティケロはエヴロス地方にある小さな町で、アレクサンドロポリスの北東48km、
エヴロス川の西わずか4kmに位置し、人口は1,483人です。

ティチェロモバイル精神保健ユニット（MMHU）は、P・サケラロプロス社会精神医学会によって設立された最も古いユニットの一つです。チームは精神科医と精神科看護師で構成され、重度の精神的および心理社会的困難を抱える成人へのケアと、その家族へのサポートを提供しています。

ティチェロMMHUへの訪問では、その運営とサービスの概要、そして地域の協力機関との交流が含まれました。この訪問は、小規模な町で社会精神医学と地域密着型ケアがどのように実施されているかを示す明確な例であり、地域支援ネットワークの強みを浮き彫りにしています。



現地視察

アレクサンドロポリスにおける職業準備・職業訓練プログラム 「現場で働く」

この職業準備・職業訓練プログラムは、心理社会的困難を抱える人々の社会復帰を支援することを目的とし、治療支援と職業訓練を組み合わせています。このプログラムは、アレクサンドロポリスから数キロ離れた農業地帯で、過去30年間にわたり実施されてきました。

このプログラムの参加者には、P.サケラロプロス社会精神医学会のリハビリテーションハウスおよび保護アパートの入居者に加え、エヴロス・ロドピ地域のモバイル精神保健ユニットの利用者と非利用者を含む、より広範なコミュニティの人々が含まれます。

近年、支援付き就労と治療的農業の取り組みの一環として、パーミンド栽培法がプログラムに導入され、参加者に有意義な活動、スキル開発、そして自然とのつながりを提供しています。





ダディア国立公園への遠足

ダディア・レフキミ・スフリ森林国立公園は、国内、ヨーロッパ、そして国際的に最も重要な保護区の一つです。バルカン半島、ヨーロッパ、アジアに生息する多くの動植物種が共存していることから、ギリシャで最初に保護地域に指定された地域の一つです。松林とオーク林が、開拓地、牧草地、野原に挟まれて織りなすモザイク状の景観は、猛禽類にとって理想的な生息地となっています。

この国立公園には、ヨーロッパに生息する4種のハゲワシのうち3種（クロハゲワシ、シロエリハゲワシ、エジプトハゲワシ）が生息しており、バルカン半島で唯一繁殖しているクロハゲワシの生息地でもあります。国立公園は、インフォメーションセンターと国立公園管理委員会の事務所があるアレクサンドロポリスから約65kmの距離にあります。ダディア・レフキミ・スフリ森林国立公園インフォメーションセンターは、ダディア村の中央広場から約800メートルのところにあります。この広場では、社会精神医学会P.サケラロプロスが、**2023年8月の火災の被災者のためにモバイル支援ユニットを運営していました。**このユニットは、プログラムに基づいて運営されています。



セミナー「危機への対処：自然災害に対する地域精神保健の対応」 への感謝と概要

社会精神医学会P.サケラロプロスの会長として、パナギオティス・サケラロプロス社会精神医学会（SSP P. Sakellarpoulos）と欧州ネットワークEUCOMS（欧州地域密着型精神保健サービス提供者ネットワーク）が共催し、2025年3月27日と28日にアレクサンドロポリスで開催されたセミナー「危機への対処：自然災害に対する地域精神保健の対応」の成功に尽力された皆様に心より感謝申し上げます。

社会精神医学会理事会を代表して、まず、セミナーの共催者である精神科医、欧州ネットワークEUCOMS会長、そして北ホラント州コミュニティ精神保健サービスFITアカデミーGGZの所長であるレネ・ケー氏に、このイベントの共催と共同議長の栄誉を賜り、心より感謝申し上げます。また、講演者としてご出席いただき、貴重な知見を発表してくださったギリシャ国内外の著名な科学者の皆様にも、心より感謝申し上げます。アレクサンドロポリス・モデル職業高校の職員、教授陣、そして生徒たちの皆さんには、同校の生徒が制作した受賞ビデオの上映にご協力いただき、心より感謝申し上げます。また、キルキとダディアの地域社会の代表者、ボランティアの方々、そして私たちの呼びかけに応じてご自身の経験を共有してくださった消防署の代表者の方々にも感謝申し上げます。

さらに、私たちが構築している協力ネットワークや、アリアナ市とスフリ市のモバイル精神保健ユニット、フィリラ市とティケロ市の地域医療センター、それぞれのコミュニティセンターと社会福祉サービス、そしてティケロ女性協会の活動方法について紹介してくださった皆様の温かいおもてなしと、貴重な貢献にも感謝いたします。

保健省、精神保健局、そして東マケドニア・トラキア州の皆様には、後援を賜り心より感謝申し上げます。さらに、当イベントで歓迎の挨拶を賜りましたエヴロス州副知事エヴァンゲロス・プリリオス氏、アレクサンドルポリ市社会連帯・スポーツ・市民保護担当副市長イリアス・ダステリディス氏、そしてエヴロス州地方部公衆衛生・社会福祉局長エヴァンゲリア・コスマダキ氏に感謝申し上げます。

このイベントの円滑かつ効果的な実施に貢献いただいた、現地組織委員会の皆様、**SSP P. Sakellariopoulos** のスタッフの皆様、そしてアレクサンドロポリスの就学前・職業訓練プログラムにご参加いただいた当サービスの利用者の皆様に、心より感謝申し上げます。

最後に、ギリシャ、スペイン、ポルトガル、オランダ、クロアチア、トルコ、イタリア、ドイツからご参加いただいた**85名**の地域精神保健サービス提供者の皆様、トラキアのデモクリトス大学の学生コミュニティの皆様、そして私たちの呼びかけに応え、ご参加いただき、2日間にわたるイベントを通して有意義な対話とベストプラクティスの交換を促進してくださった地域コミュニティおよび団体の代表者の皆様に感謝申し上げます。

このセミナーは成功であったと自信を持って言えます。今後も、増加する自然災害への対応策、特に心理的トラウマからの回復と、市民や地域社会の精神的レジリエンスの強化に焦点を当て、その重要性を強調し続けることに熱意を持って取り組んでいきたいと考えています。

Yours sincerely,

For SSP P. SAKELLAROPOULOS



閉会の辞

セミナー「危機への対処：自然災害に対する地域精神保健の対応」の閉会にあたり、この集いを意義深く忘れられない経験にしてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

まず第一に、現地ホストを務めてくださった社会精神医学会のP. サケラロプロス氏に深く感謝申し上げます。皆様の揺るぎない献身、綿密な計画、そしてたゆまぬ努力により、温かさと学び、そして人間的な繋がりに満ちた空間が創り出されました。あらゆるロジスティクスの細部にわたる管理から、私たちを温かく迎え入れ、地域に根ざした素晴らしい活動について洞察を与えてくださったことまで、皆様のご尽力は単なるホストの域をはるかに超えていました。これは、私たちの共通の使命に対する真摯な配慮と献身の表れでした。

ギリシャおよびヨーロッパ各地からお越しいただいた講演者およびプレゼンターの皆様には、専門知識、実体験、革新的な実践、そしてより包括的でレジリエントなメンタルヘルスシステムに向けたビジョンを共有していただき、誠にありがとうございました。皆様のご協力のおかげで、このセミナーは知識と感情、理論と実践、そしてグローバルな洞察と地域的な関連性をバランスよく融合させた、力強い学びの旅となりました。

参加者の皆様、積極的なご参加、思慮深いご質問、そして惜しめない意見交換は、議論を豊かにし、環境、社会、心理といった危機に直面した際に、協力こそが私たちの最も強力なツールであることを改めて認識させてくれました。専門家、サービス利用者、研究者、支援者など、どのような立場でご参加いただいたとしても、皆様の存在は大きな違いを生み出しました。

アレクサンドロポリスでの2日間、私たちは共に振り返りのひとときを共有し、感動的な証言に出会い、フィールドワークの現場を訪れ、そして、今後も持続的なパートナーシップへと発展していくことを願う繋がりを築きました。このセミナーを通して、地域精神保健は単なるモデルではなく、思いやりと行動を共にする人々の、生き生きとしたネットワークであることを改めて認識させられました。

このネットワークに加わっていただき、ありがとうございます。

心より感謝申し上げます。レネ・ケー&EUCOMSネットワーク理事

BECOME A PARTNER

JOIN OUR GLOBAL NETWORK

That is possible! Becoming a partner or collaborator is open for individuals and organisations that provide or support services for people affected by mental illness. For more information and to register please click the link below.

[CLICK HERE TO JOIN OUR NETWORK](#)

SUBSCRIBE TO OUR NEWSLETTER

JOIN OUR MONTHLY NEWSLETTER WITH FRESH INFORMATION

Every month we share with our network news, information, updates and future events. Subscribe to receive the newsletter once a month.

[**CLICK HERE TO SUBSCRIBE**](#)

[**CHECK HERE TO READ THE PREVIOUS NEWSLETTERS**](#)

Find us on social media:



Our mailing address is:
info@eucoms.net

Copyright © 2025 EUCOMS Network. All rights reserved.